

令和2年度箕面国有林におけるニホンジカの生息状況外モニタリング調査報告書 —概要版—

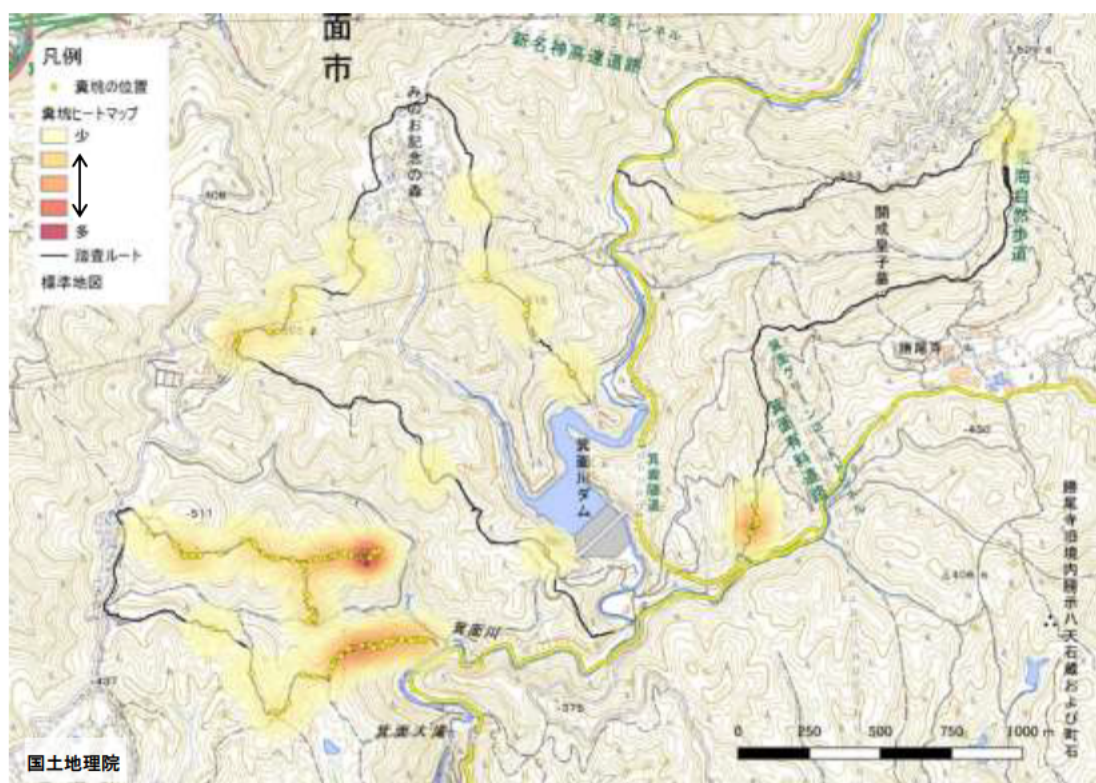
令和3年3月
(株)野生動物保護管理事務所

糞塊密度調査調査

令和2年度からシカの生息動向を把握することを目的に、糞塊密度調査を開始した。糞塊密度調査は、国有林の主要な尾根を踏査し、10粒以上の糞塊の位置とルート別の個数を記録した。

結果

- ・箕面国有林全体ではシカの糞塊が少なかったが、一部の地域に糞塊が集中していた。
- ・国有林全体では、糞塊密度が11.21個/kmであった。



確認された10粒以上糞塊の位置

ルート別糞塊密度

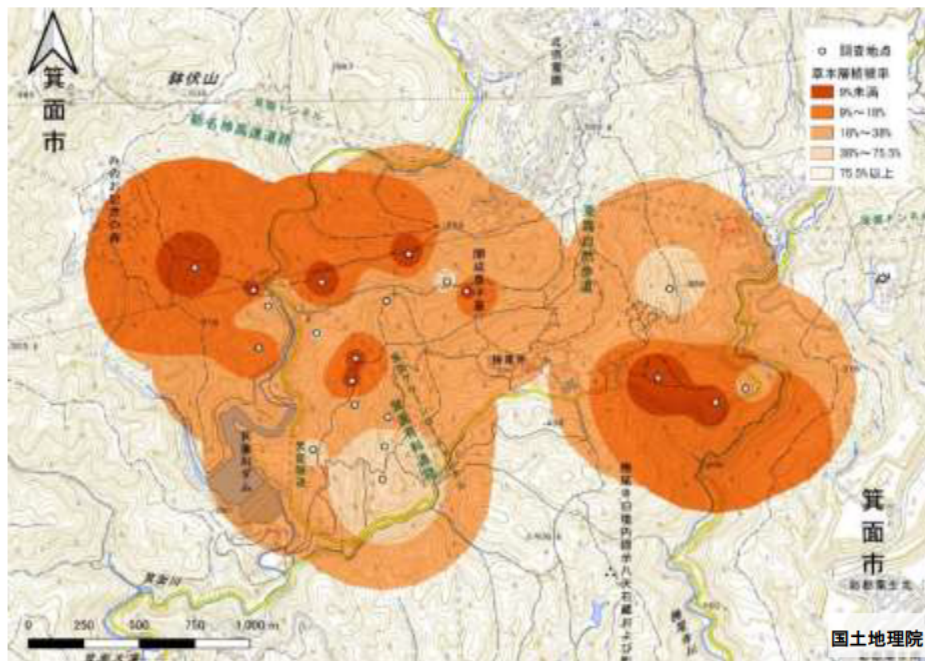
ルートNo.	10粒以上糞塊数	距離 (km)	糞塊密度 (個/km)
1	20	5.15	3.89
2	17	4.17	4.08
3	107	3.53	30.31
合計	144	12.85	11.21

ニホンジカによる森林植生衰退状況調査

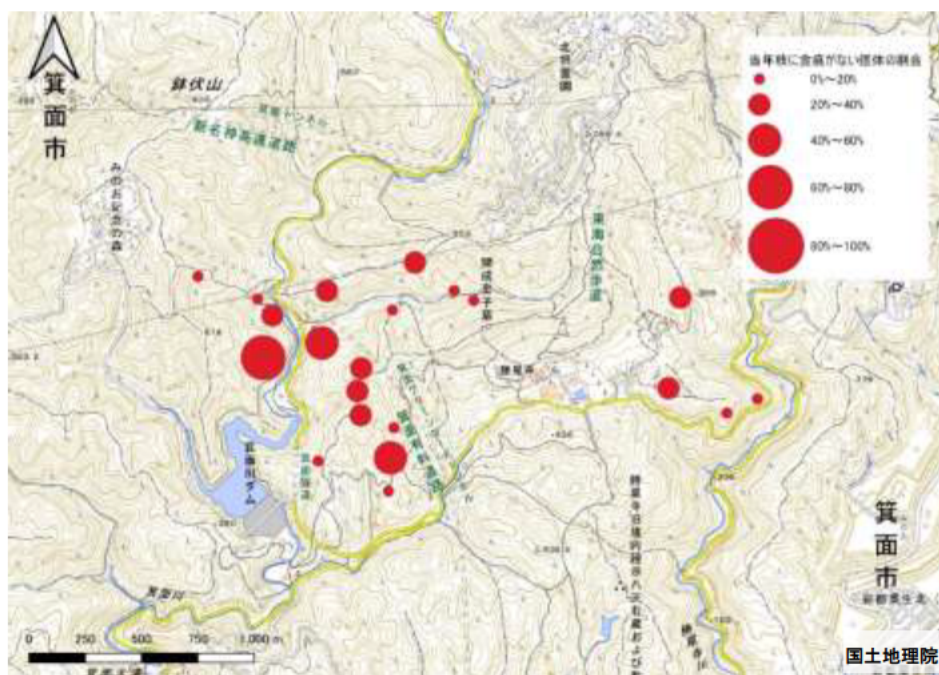
箕面国有林のシカの影響を広域で把握することを目的に、箕面国有林の東部地域において森林植生衰退状況調査と食痕履歴法による調査を行った。

結果

- ・調査は 21 地点で実施し、草本層の植被率が低い地域が道路等から少し離れた地域に多かった。
- ・清水谷周辺など捕獲が進んでいる場所では、草本層の植被率が高い傾向が見られた。
- ・食痕履歴法により、過去は毎年採食されていたにもかかわらず、今年シカによる採食がなかった樹木が確認された。
- ・今年シカの採食を受けなかった樹木の割合が多かったのは、清水谷および箕面川ダム周辺で確認され、捕獲の効果が表れていることが示唆された。



草本層植被率の IDW 法による空間補間結果



毎年採食されていながらも当年枝に食痕が無い個体の割合

固定プロット森林影響調査

森林植生衰退状況調査を実施した調査地のうち12カ所において、固定プロットを設置し、今度のモニタリング調査地点とし、多様性植生調査法を実施した。

結果

- シカの影響が顕著にでる第2低木層と草本層において、植被率が低く、さらに出現種数は極めて少なく、シカの影響が深刻であることが示唆された。

植生タイプ別の平均階層高、植被率

植生タイプ	スギ・ヒノキ人工林		落葉広葉樹林	
	調査区数	8	4	
高さ(m)	高木層	21.0 ± 2.14	23.0 ± 1.15	
	亜高木層	10.0	13.5 ± 1.29	
	第一低木層	4.8 ± 1.48	5.8 ± 0.96	
	第二低木層	1.5 ± 0.45	1.9 ± 0.25	
	草本層	0.3 ± 0.20	0.3 ± 0.21	
植被率(%)	高木層	93.1 ± 10.33	67.5 ± 17.08	
	亜高木層	0.1 ± 0.35	86.3 ± 17.02	
	第一低木層	11.3 ± 16.64	33.8 ± 19.74	
	第二低木層	9.0 ± 9.68	6.5 ± 5.97	
	草本層	9.4 ± 9.72	1.3 ± 2.46	

植生タイプ別の平均胸高直径 (DBH)、平均密度、平均出現種数

植生タイプ	スギ・ヒノキ人工林		落葉広葉樹林	
	調査区数	8	4	
林冠木平均DBH		27.9 ± 6.0	32.3 ± 11.6	
林冠木平均密度(100m ²)		9.1 ± 2.2	2.8 ± 1.7	
平均出現種数 (全体)		36.8 ± 9.7	26.3 ± 10.7	
高木層		1.5 ± 0.5	2.0 ± 0.8	
亜高木層		1.0	4.8 ± 1.0	
第1低木層		1.4 ± 0.9	3.3 ± 1.3	
第2低木層		3.2 ± 1.5	1.8 ± 1.0	
草本層		31.9 ± 9.8	14.5 ± 12.2	